

# 王寺町総合計画審議会(兼 総合戦略懇話会)会議録

日 時 令和2年2月25日(火) 19:00～20:50

場 所 やわらぎ会館3階 小会議室2

出席者 委員 中川 義弘 委員(王寺町議会議長)  
北村 達夫 委員(王寺町議会議員)  
中川 幾郎 委員(帝塚山大学名誉教授)  
井村 知次 委員(王寺町自治連合会会長)  
黒田 ゆかり 委員(王寺町社会福祉協議会理事)  
佐野 純子 委員(王寺町観光協会アドバイザー)  
友村 浩之 委員(株式会社南都銀行王寺支店長)  
長岡 雅美 委員(奈良テレビ放送株式会社代表取締役社長)  
東中 有紀 委員(王寺町教育委員会教育委員)  
平岡 秀隆 委員(王寺町副町長)  
福井 伊佐男 委員(王寺町商工会会長)  
池田 満津子 委員(住民公募)  
横山 奉典 委員(住民公募)  
平井 康之 王寺町長  
幸田総務部長  
事務局 南政策推進課長、酒田総合戦略係長、榊井総合戦略係主事

欠席者 直田 春夫 委員(NPO政策研究所理事長)

## 案 件

- 1 委嘱状交付
- 2 委員自己紹介
- 3 会長の選出について
- 4 会長職務代理者の指名について
- 5 第2期王寺町総合戦略について
- 6 今後の審議内容及びスケジュールについて
- 7 その他

## 1 委嘱状交付

### 町長挨拶

王寺町総合計画審議会(兼 総合戦略懇話会)委員として委嘱させていただいた。長期間になるが、よろしく願います。

さて、1年程前に王寺町の最上位計画である「王寺町総合計画」を策定した。

一方で、国から第2期の地方版総合戦略を作るよう指示があり、国は令和元年12月に第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

奈良県も新「都」づくり戦略を策定し、それを基に国の戦略と整合性を図りながら第2期総合戦略を策定しているところである。

王寺町も同様に、王寺町総合計画の前期基本計画を基に、第2期王寺町総合戦略を策定する。様々な国や県の流れがある中で、今後5年、10年でどういったまちづくりをしていくのかという、具体的な計画づくり行うところだ。

王寺町では、王寺町総合計画を下敷きにしながら、人口減少対策を重点課題とした第2期王寺町総合戦略(案)に再編したが、それでいいのかという視点でご審議いただきたい。併せて、王寺町の描く人口シミュレーションを達成するために、まちづくりにどのように取り組んでいくのかという、その基本の部分についても皆さんにご審議いただきたい。

王寺町長に就任して7年。まちづくりは一朝一夕にはできない。

現在、「教育のまちづくり」として、義務教育学校を令和4年に2校開校するよう進めている。王寺町が教育のまちとして、将来の人材をどう育成するかは重要な課題だ。

また、5万人の乗降客がある王寺駅を抱える町として、周辺7町の拠点として、都市機能をどう高めていくのかも大きな課題であるし、「子育て」など重要な課題は様々ある。

王寺の場合、人口は微増している。社人研の推計では今後減ることは避けられないが、減少幅をどうやって抑えるのかが重要だと考えている。関連する数値データも見ていただきながら、皆さんには王寺町の大きな方向付けをしていただきたい。

## 2 委員自己紹介

## 3 会長の選出について

事務局 王寺町総合計画審議会条例第5条第2項の規定により、「会長は、委員の互選により定める」とあるが、会長の選出方法についてお諮りしたい。

委員 行政学・地方自治法を研究しておられ、前回の総合計画審議会でも会長を務められた中川幾郎名誉教授に再度お願いしたいと考えるがいかがか。

委員一同 異議なし

会 長 前回の総合計画に引き続き、審議会の会長を務めさせていただくこととなった。私にとって、奈良はご縁の深い土地。仲間の一人とさせていただけたらうれしい。どうかよろしくお願いします。

#### 4 会長職務代理者の指名について

王寺町総合計画審議会条例第5条第4項の規定により、会長が直田春夫委員を会長職務代理者に指名した。

#### 5 第2期王寺町総合戦略について

第2期王寺町総合戦略（案）及び人口ビジョンについて事務局より説明

会 長 過去、全国の地方自治体は、「基本構想」を作らなければならない義務があった。基本構想の下に基本計画をくっつけて「総合計画」というのが全国にあった。それが民主党政権の際に義務付け枠付けを外され、作る必要のない計画となった。総合計画を廃止した自治体は少なかったが、基本構想だけを議会に承認を得るようなアリバイ型総合計画が横行していた。そんな中、きちんとした目標指数を入れて行政の役割・住民の役割を明記することが本来の計画行政だという反省が各所で行われ、多くの自治体で自立した総合計画の策定が始まった。王寺町でもそのように取り組もうとした矢先に、国が地方創生のために「地方版総合戦略」の策定の指示を全国の自治体に出した。「地方版総合戦略」ではデータ分析に基づいた数値目標KPIの設定が必要で、多くの自治体で大変な苦勞を強いられることになった。しかし、地方版総合戦略を策定し、戦略の内容を反映していくことで各自治体の総合計画の質も向上した。王寺町もその自治体のひとつ。しっかりした総合計画があるので、第2期王寺町総合戦略は、王寺町総合計画の前期基本計画の内容で90%はできており、その苦勞を省略することができる。そこに、数値目標として人口の自然増や合計特殊出生率などの人口減少対策を入れて加筆修正したものがこの第2期王寺町総合戦略（案）であるということだが、ご了承いただけるか。

委員一同 異議なし

会 長 また、総合戦略では「懇話会」、総合計画では「審議会」と今までは2枚看板で開催されていたが、戦略と計画の内容が近似しており、2つを一体的に効率よく管理するため、兼ねていただくということであった。

王寺町だけではなく、他の自治体でも新しい総合計画に切り替わるタイミングでこのような組み立てとなる。私に関わっている寝屋川市、生駒市でも同じように総合計画審議会 兼 総合戦略懇話会という組み立てである。

委 員 総合戦略について感想を述べさせていただくと、2(住み続けたいまちづくり)・5(みんなが学べるまちづくり)・6(活力とにぎわいのあるまちづくり)を強調したほうがよいのではないかと感じた。

会 長 第2期王寺町総合戦略(総合計画前期基本計画)の中身を実現していくための一番重要な柱である人口減少対策について、各自の見解を順番にお聞かせいただきたい。

委 員 人口減少対策として、王寺町では平井町長を中心に子どもを育てやすい環境づくりに取り組んでいる。これから、義務教育学校ができ、2つの学校が廃校になる。個人的な意見だが、マンションの建設により、若い人の移住を促進するのがいいのではないかと思う。若い人が子育てしやすい町を目標にしていきたい。

委 員 子育て施策は充実しており、住宅開発により人口が増えたが、今後は減少していくだろう。それを食い止めるためには、それ以外の施策、新たな産業の開発や企業の誘致、雇用対策により、移住・定住を促進することが必要ではないか。

委 員 義務教育学校の開校を前面に押し出すべき。それに加えて、子育てのしやすい自然や交通利便性などの環境づくりが大切。一方、王寺町は水害に弱いですが、将来的に水害に強い町になっていくだろうと思ってもらえるように、町の災害対策を内外にアピールしてはどうか。駅周辺のまちづくりとして、久度地区、舟戸地区は道路が狭く、火災の際に緊急車両が通りにくいという課題を解消することによって、安心して住めるまちになっていく。

委 員 子育て支援をして、マンションが建って若い方に移住してもらうのが一番早いと思う。王寺に住んでいる親の面倒を見ないといけませんが、仕事がないと王寺に戻って来られない状況もあると思うので、そういう人への支援にも取り組んでいければ。

委員 子どもの教育のために住居を移動する親もいる。奈良県の南部ではそのようなケースが多い。南部の人口減になるかもしれないが、明日香村や橿原市に行くところを、王寺町に移住してもらってもいいのでは。

私が王寺に引っ越してきた40年前は、大阪に近い奈良の土地といえば、近鉄沿線が強かったので、学園前という固定観念があった。しかし、新今宮で乗り換える学校であれば王寺が断然便利。大阪の私学に対して、王寺の便利さをアピール、広告をするような手立てが今後必要ではないか。

私の隣の家に神奈川から家族が越されてきたが、手ごろな価格で住環境の良い一戸建てに住めることを喜んでおられた。近場だけでなく首都圏での移住プロモーションをしてはどうか。

委員 王寺町は住環境、交通の便に優れている。奈良県にこれだけの条件が整っている場所は少ない。南元町の住宅開発で人口が増加した状況で、もう一段階若い方に移住してもらうのに効果的な方策は何か考えたところ、住宅購入に補助金を出すのが一番効果があると思う。子育て支援や教育が充実していれば長く住んでいただくことができるので、税金という形で回収することは十分可能ではないか。

委員 住環境の整備、就業する場所をつくること、子どもを産んでもらえる環境づくり、移住への政策が重要。王寺町の出生率が非常に上がっているが、なにが原因だと分析されているか。

委員 親が住居を考えるときに、子どもたちがどこの学校に通えるかというのは大きな関心のひとつ。王寺町の学校や幼稚園が素晴らしいと聞けば、それが町の魅力になると思う。なにをもって「素晴らしい」というか人それぞれだが、共通しているのは、子どもたちを安全に通わせる、送り出すことができること。通学路や普段の生活の中で、危険な場所はないか、不安に感じる場所はないか常にチェックして、何かあればすぐに対応することが大事。

委員 人口減少対策は、これだけやればいいということはない。利便性が高いのはご承知のとおりだが、教育、仕事、住宅などの問題に対し、ありとあらゆる手立てをうっていくことが人口増加につながる。王寺を選んでもらえるように、どこまでできるか分からないが、幅広くやれることはやっていく。

委員 南元町の開発が終わり、王寺で住宅開発できる場所は、町南東の市街化調整区域しか残っていない。王寺駅前である久度地区の高さ制限が33メートルであるが、40メートルまで緩和できれば、高層ビル・高層マンションが建ち、若い方の移住が増えるのではないかと思う。

委員 結婚適齢期を含め、引きこもりの方が多いのが大きな問題。結婚しない方が増えている一方、結婚しても離婚する方も多い。先日、あるイクメンの方と話をする機会があったが、奈良県の婚活パーティがきっかけで出会われたらしい。商工会で婚活イベントをしているとも聞いたが、ひとつの彩として、そういうことにも取り組んでもらえたら。明神山で結婚式を挙げるだとか、雪丸が登場するだとか、大きなイベントに発展するし、人口の活性化につながるのでは。

委員 日本全国、どこの自治体も人口の獲得について考えている。他の自治体と同じことをしては出し抜けない。よそにマネできないことが必要。  
王寺の強点である久度地区の交通利便性・生活利便性のポテンシャルを活かし、高層化を図る。広い都市計画道路を何本か通すと、マンション事業が非常にやりやすくなる。建物は民間に建ててもらえばいい。  
以前の資料を見ると、久度地区は空き家が多く、老朽化していて危険もある。密集市街地の問題を解消するためにも早急に再開発を進めることが一番ではないか。

会長 みなさんから、それぞれの専門分野からのご意見をいただいた。中央への人口集中が緩和されない状況では、日本の人口維持は難しいが、Iターンなどで和歌山の山奥に東京の人間が移住する例、兵庫県朝来市が日本で一番移住したい都市として注目を集める例もある。これまで農業に向かわなかった若者が、農業に光を見出している。若者の農業への参入をしやすくしてあげてはどうか。  
参考となるライバル自治体の事例を学んで、政策に反映させることが重要。明石市は、人口が増加しており、特に若い方の人口が増えている。なぜ、明石市がそれほどまでに人口増加しているのか、それはPRの上手さ。子育て施策については、王寺町とさほど差はないがPRが上手い。明石の戦略を学んではどうか。  
そして、朝来市や丹波市には、関西はおろか首都圏から若者がイメージに引きずられて移住している。移住して、農業や民泊などをして定着している。そういうことにも一度目を向けてみてはどうか。  
計画に入れるという話ではなく、担当者レベルで事業を進めていくときの参考にさせていただければ。  
また、鉄道沿線という共通点でいうと、寝屋川市・守口市・門真市・枚方市・大東市の競争が激化し、各市が文化によるイメージアップ戦略を展開している。レベルの高い美しさ、歴史を大事にする品格性など、競って文化に注力している。枚方市は「枚方宿の整備」、大東市は「のぎきまいり」と、みんな必死になってやっている。その必死さが王寺町にほしい。実務担当者がそれらのことを学んで、計画の実践に魂を入れてほしい。

町 長 いろいろな切り口で王寺がこうあるべきということを言っていた。先ほど、委員から合計特殊出生率上昇の原因について質問があったが、平成 26 年に出生率が 1.26 まで低下している。その際に、奈良県初だったと思うが、思い切って 2 子目の保育料を無料にした。子育てで心配なことは何かと考え、これも他ではやっていなかったと思うが、インフルエンザの予防接種への助成も始めた。2 子目保育料無料は効果が高かったと考えている。社会増を増やす施策もあるが、出生率を上げるようにしていきたい。王寺で生まれ育ち、就労もし、質の高い文化的な生活ができるというのが一番望ましい。これだけ良い環境のまちは他にはないと思っている。その中で会長の話にあったような文化性をどう高めるか。奈良県では、文化と観光は一体のものであると思っている。昨年、王寺町は全国の町村で初めて、文化庁から文化財保存活用地域計画の認定を受けた。観光客が行政区域を意識して来るわけではない。法隆寺(斑鳩町)、信貴山(三郷町・平群町)、尼寺廃寺跡(香芝市)など、王寺駅から 4 キロ圏内にあり、これらは全て王寺町の観光資源だととらえている。王寺町がこれだけ歴史文化に恵まれていることを地元が気付いて発信していくことが大事。文化で観光を推進することが理想的であり、文化度の高さは上質な生活へとつながる。また、義務教育学校を整備し教育の質を高めることが町のステータスとなり、これらを総合的に進めていくことが大事だと考えている。

## 6 今後の審議内容及びスケジュールについて

事務局より説明

## 7 その他

特になし

以上